

経済同友会は9月15日、2009年9月期の景気定点観測アンケート調査結果を発表した(回答数205名)。

## 日米は今後「緩やかに成長する」と見る一方、「再び減速」の懸念も

景気の現状については、「横ばい状態が続いている」(56.6%)との回答が最も多く、同友会景気判断指数は6.3(6月調査時 -21.2)に改善した。今後2年間の景気見通しについては、日本は「緩やかに成長する」(37.3%)、「一時的な回復の後、再び減速する」(35.8%)の順に回答が多く、米国も同様となった。一方、中国は、「緩やかに成長する」(61.9%)、「急速に成長する」(23.8%)となった。

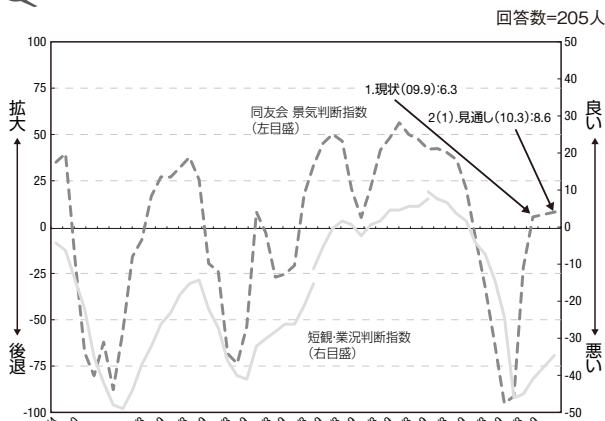
今回のトピックスの「民主党政権への期待」については、「期待できる」(24.4%)の一方、「どちらとも言えない」(49.8%)との回答が最も多かった。また、期待する政策として、「経済成長戦略」や「徹底した歳出削減」「社会保障制度の一体的見直し」などが

挙げられた。

その他、「リーマン・ショック以降の経営努力」について、37.8%が「雇用の削減」を実施し、そのうちの78.1%は効果が大きかったと回答した。なお、同様の調査を「新商品、新サービスの開発・投入」や「新興国市場における需要の獲得」などについて実施した。

### 景気の現状について

Q 現在のわが国の景気動向をどのように判断されますか。

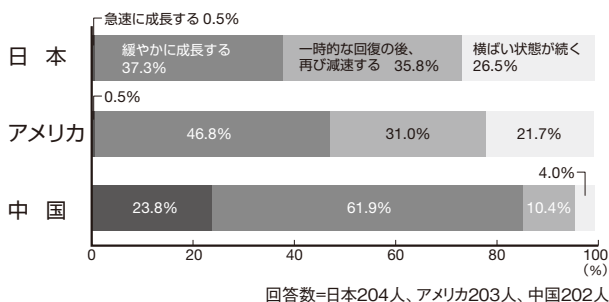


(注)同友会景気判断指数:アンケートへの答えのうち、「拡大している」を1、「緩やかに拡大している」を0.5、「横ばい状態が続いている」を0、「緩やかに後退している」を-0.5、「後退している」を-1として、それぞれの答えの比率をかけ、合計したものを(「その他」は考慮せず)。

### トピックス

#### 今後2年間の日本・アメリカ・中国の景気の見通し

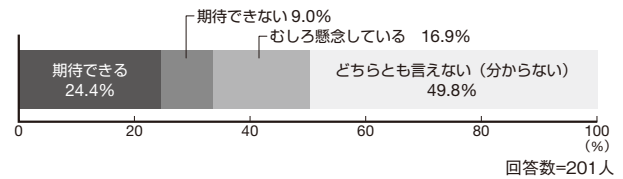
Q 日本、アメリカ、中国の今後2年程度の経済動向について、それぞれ最も可能性が高いとお考えのシナリオイメージをお選びください。



### トピックス

#### 第45回衆議院議員総選挙の結果を受けて

Q 今回の政権交代は、日本経済に好影響を与えるでしょうか。印象をお聞かせください。



Q 選挙結果を踏まえ、今後、政治が優先して取り組むべき課題は何だと思われますか。重要と思われるものから順に、お考えに沿うものを3つお選びください。

	回答率	1位回答率	平均スコア
経済成長戦略	70.7	50.5	1.82
徹底した歳出削減(無駄の排除)	49.0	25.8	1.15
年金・医療・介護等の社会保障制度の一体的見直し	46.0	8.1	0.84
規制改革の推進	24.2	2.5	0.38
外交・安全保障(日米関係、東アジア外交など)	20.7	3.0	0.38
税制抜本改革	18.7	2.0	0.31
少子化対策	18.7	2.0	0.31
地方分権の推進	13.7	3.5	0.26
公務員制度改革の推進	13.7	0.5	0.20
地球温暖化対策の推進	6.6	0.5	0.09
農業改革の推進	6.5	0.5	0.09
EPA/FTA交渉の推進	4.0	0	0.06
格差(中央と地方)の是正	4.0	0.5	0.06
政治とカネの問題	2.0	0	0.02
その他	1.0	0.5	0.03

(注)平均スコアは、1位:3点、2位:2点、3位:1点として算出